

ベトナム 日本式内視鏡診察トレーニングによる日本製品の輸出拡大(1/2)

今回のトレーニングは、名古屋大学が作成したカリキュラムに基づいて行われ、その結果ベトナムの内視鏡医が育成される。育成においては名古屋大学が目指している「消化器がんの最新診断と最新治療、及びテーラーメイド医療と機能温存・低侵襲手術から拡大根治手術に至るまで患者さんの状態に応じた治療」という理念が大きく寄与している。特に、**医師への指導のみならず、看護師への指導を実施**した事で、①内視鏡検査前の前処置、②内視鏡検査中の患者の苦痛軽減、③円滑な内視鏡検査の実施、④術後における内視鏡をはじめとした医療器材の洗浄消毒方法、⑤内視鏡の保管方法、といった「内視鏡手技のトータルパッケージ」を指導する事が可能となり、本システムの有用性を高めることができた。

加えて、MEJセミナー等各所において本活動を訴求してきた結果、ベトナム中部のみならず、ハノイ、ホーチミンといった都市部においてもフエ医科薬科大学と同様のトレーニングを実施して欲しい、という要望が多く寄せられた。このような実技を通じたトレーニングは非常に有用であったと考えられる。

本システムは**トレーニングと日本製医療器材をパッケージ**としたものである。日本製医療器材においては、トレーニング参加者は、内視鏡及び関連器材のみならず、**他製品についても大きな関心**を寄せていた。

このような点から、トレーニングと器材をセットとして日本製医療器材を訴求し、営業活動を行うことは、今後の日本製医療器材の輸出拡大にとって非常に有効な手段であると考え次第である。

ベトナム 日本式内視鏡診察トレーニングによる日本製品の輸出拡大(2/2)

現地でのトレーニング受講生へのアンケート及びハノイ・ホーチミンでの実証調査により、内視鏡や周辺器材の購入意欲は非常に高い事が判明した。事実、首都ハノイの一部病院では、最先端器材の購入が進んでおり、本実証調査が現地病院に与えた影響は非常に大きいものがあったと考える。

併せて、今回のトレーニングに参加したフエ医科薬科大学以外の医師からも「非常に勉強になるトレーニングであった」とのコメントも得ており、**本トレーニングの普及・拡大が内視鏡医を増加**させ、結果として**内視鏡に関連する器材の輸出拡大**につながる期待が持てる。

加えて、本実証調査、及び官民共同施策（MEJセミナー等）の実施を通して**内視鏡及び関連器材以外の日本製医療器材（例：CT、MRI等の画像診断装置）**への関心が高まっている。日本式内視鏡診療トレーニングシステムにより、今後日本製医療器材や日本式の診療手法がベトナム国において益々認知され、結果として日本企業の輸出拡大に大きく貢献できると確信する。

図表25 アンケート結果（抜粋）

1. 集計数:18

2. 現在病院で実施している手技

上部内視鏡 検査	下部内視鏡 検査	ERCP	超音波内視鏡 検査	小腸内視鏡 検査
18	18	5	2	0

3. トレーニングで学びたいスキル

上部内視鏡 検査	下部内視鏡 検査	ERCP	超音波内視鏡 検査	小腸内視鏡 検査
18	18	10	5	1

4. 病院での内視鏡器材購入計画の有無

有り	10
無し	8